

令和 6 年度 第 3 回
芽 室 町 図 書 館 協 議 会 議 案

と き 令和 7 年 3 月 2 7 日 (木)

1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

ところ 芽室町図書館視聴覚室

1 開 会

2 生涯学習課長あいさつ

3 案件

(1) 令和 6 年度図書館利用状況について — 1

(2) 令和 7 年度図書館費予算について — 2

(3) 芽室町図書館カスタマーハラスメントに対する基本方針について — 3

(4) 令和 7 年度第 5 2 回芽室町読書感想文コンクールについて — 4

(5) その他

4 そ の 他

5 閉 会

令和6年度図書館利用状況

	貸出冊数(冊)			貸出者数(人)			行事利用者数(人)		
	令和6年度	令和5年度	差	令和6年度	令和5年度	差	令和6年度	令和5年度	差
4月	10,960	12,334	△ 1,374	2,538	2,827	△ 289	256	597	△ 341
5月	11,428	10,611	817	2,570	2,399	171	1,019	710	309
6月	10,960	10,524	436	2,399	2,217	182	287	298	△ 11
7月	10,336	11,558	△ 1,222	2,349	2,624	△ 275	401	974	△ 573
8月	11,872	11,367	505	2,892	2,530	362	937	995	△ 58
9月	11,097	10,742	355	2,638	2,509	129	1,602	398	1,204
10月	11,625	11,237	388	2,689	2,590	99	354	1,597	△ 1,243
11月	12,493	11,392	1,101	2,958	2,612	346	577	1,156	△ 579
12月	13,250	12,767	483	2,789	2,715	74	348	860	△ 512
1月	12,331	10,962	1,369	2,841	2,433	408	552	309	243
2月	12,251	12,000	251	2,774	2,762	12	300	884	△ 584
3月		13,354			3,000			752	
合計	128,603	138,848		29,437	31,218		6,633	9,530	

電子図書館

	貸出冊数				貸出者数
	電子書籍	オーディオブック	マガジン	合計	
4月	418	12	46	476	133
5月	469	20	95	584	125
6月	733	14	54	801	151
7月	711	3	76	790	156
8月	455	15	36	506	128
9月	717	16	62	795	148
10月	632	6	45	683	147
11月	921	24	63	1,008	235
12月	633	19	90	742	209
1月	420	15	65	500	141
2月	341	17	65	423	108
合計	6,450	161	697	7,308	1,681

※参考 R5(6ヵ月分)	4,512	195	500	5,207	1,395
-----------------	-------	-----	-----	-------	-------

令和7年度図書館費予算

	図書館維持管理事業	図書・視聴覚資料の貸出・保存事業	図書館協議会運営事業	図書館ボランティアサークル活動支援事業	読書活動推進事業
	16,917	11,450	124	149	582
1 報酬		168	86		
4 共済費		会計年度任用職員報酬 1	委員報酬		
7 報償費		労働保険 15			163
8 旅費		装備等報酬 139		サークル活動報償ほか	講師謝礼ほか
10 需用費	5,656	職員旅費 1,302	36		
11 役務費	820	雑誌等 80	費用弁償		文集、ブックスタート絵本
12 委託料	5,113	郵便料 155		15	38
13 使用料	78	電子書籍化委託 2,860		傷害保険	チラシ折込 17
14 工事請負費	1,323	電子図書、データベース			託児
17 備品購入費	3,918	照明撤去、噴水砂利敷 図書情報システム、消火器			
18負担金補助及び交付金		9	2		70
		防火安全協会ほか	研修会受講料		まつり補助金

芽室町図書館カスタマーハラスメントに対する基本方針

令和7年3月1日

芽室町図書館

1 基本的な考え方

芽室町図書館は日頃から図書館サービスの向上や業務内容の改善につなげるため利用者等の皆様の御意見や御要望に対して誠実かつ真摯に対応するよう努めています。

しかし、これらの御意見や御要望の中には、その内容が妥当性を著しく欠くものや、社会通念上不相応な言動、暴力的行為など職員の尊厳を不当に傷つけるものがあります。これらの行為は職員の就業環境を害するものであり、他の利用者等へのサービスを低下させることにもつながります。

芽室町図書館は、職員が安心・安全に業務にあたる環境を整備するとともに、更なる図書館サービスの向上が図れるよう利用者等からの暴行、脅迫、暴言、不当要求等の著しい迷惑行為（カスタマーハラスメント）の防止対策を推進してまいります。

2 カスタマーハラスメントとは

利用者等による妥当性を欠いた要求や、妥当性がある場合でも社会通念上不相当な言動等により、図書館職員等の就業環境を害するおそれがあるものをカスタマーハラスメントと定義します。

例として「身体的な攻撃（暴行、傷害）」、「精神的な攻撃（脅迫、中傷、名誉棄損、侮辱、暴言）」、「威圧的な言動」、「土下座の強要」、「継続的、執拗な言動」、「拘束的な行動（不退去、居座り、監禁）」、「差別的な言動」、「性的な言動」、「職員個人への攻撃、要求」などがあげられます。

3 カスタマーハラスメントへの対応

カスタマーハラスメントに該当する行為が発生した場合は、芽室町行政対象暴力対応マニュアル、芽室町図書館設置及び管理条例施行規則等を踏まえ、警察等の外部機関とも連携しながら厳正に対応してまいります。

令和7年度第52回芽室町読書感想文コンクールについて

1 事業の目的

日常生活の中で、読書をする機会が少なくなっている現在、より多くの本と親しむことで思考力を高め、豊かな人間性を育むことを目的とする。

2 事業概要と実施状況

学校を中心に町内に広く読書感想文の応募を呼びかけ、集約した作品を学校選出と一般公募により編成された20名の審査委員会で審査して入賞作品を決定し、文集作成、表彰式の実施を行っている。

応募点数は平成30年度735点、令和元年度611点、令和2年度504点、令和3年度275点、令和4年度127点、令和5年度134点となっていた。

令和6年度は新たに読書の感動を1枚のカードに記すPOP部門を追加設定して実施し合計290点の応募があった。(感想文部門105点・POP部門185点)

3 課題等

- ・POP部門でのキャラクターや字体の模写等の著作権の問題
- ・学校選出の審査委員について(国語担当以外について)
- ・POP部門での賞区分が感想文部門と同じ(最優秀、優秀、秀作)で良いか

令和6年度 第51回芽室町読書感想文コンクール実施要領

【感想文部門】

- 1 目 的 日常生活の中で、読書をする機会が少なくなっている現在、より多くの本と親しむことで思考力を高め、豊かな人間性を育むことを目的とする。
- 2 主 催 芽室町教育委員会
- 3 応募期間 令和6年8月1日（木）～令和6年9月20日（金）
- 4 提出先 芽室町教育委員会 生涯学習課図書館係、社会教育係
- 5 実施内容
 - (1) 応募資格 町内在住者、並びに町内小・中・高校通学者
 - (2) 対象図書 自由。ただし、次の事項に注意すること。
 - ①教科書など授業で使用する図書、並びにマンガ本（学習マンガを含む）は除く。教科書に掲載されていて習ったものは不可。
 - ②絵本、図書になっているケータイ小説も可。
 - ③シリーズ物は1作品に絞る。
 - ④上下巻などは読み切る。
 - (3) 応募規定
 - ① 字 数

小学1年生	2枚以内（150字詰原稿用紙）
小学2年生	3枚以内（200字詰原稿用紙）
小学3年生	2枚以内（400字詰原稿用紙）
小学4～6年生	3枚以内（400字詰原稿用紙）
中学生・高校生・一般	5枚以内（400字詰原稿用紙）

（中学生・高校生・一般は4枚目に入り5枚以内の分量のものが望ましい。
また字数を増やすため、みだりに平仮名を使いすぎないこと。）
 - ② 応募は1人1編、未発表のものに限ります。

- ③ 原稿用紙は、市販の 400 字詰原稿用紙又は図書館が作製した原稿用紙で手書きとするが、パソコン作成も可とし、字数は原稿用紙と同程度とする。(学校名の入った原稿用紙は、使用しない。)
- ④ 筆記用具は自由とするが、色は黒とし、鉛筆の場合はB以上の濃いものを使用すること。
- ⑤ 小中学生、高校生は、応募時に応募票を添付してください。
- ⑥ 小中学生の方は、原稿用紙の欄外に、題名・学年・読んだ本の書名を記入してください。(学校名・氏名は原稿用紙に記入しないでください。)

(4) 審査要領

- ①各学校の代表者並びに一般町民から応募いただいた方により委員会を組織し、審査する。
- ②各学年とも最優秀は1名、小中学生については、優秀は対象者の 10%以内、秀作は対象者の 15%以内を入賞の目安とし、高校・一般は作品の内容により、入賞数を決める。
- ③審査は、作品内容を重視すること。

(5) 表 彰

最優秀、優秀、秀作の三部門とし、最優秀作品受賞者は図書館で行われる表彰式で賞状と記念品を贈呈する。

なお、優秀、秀作受賞者には賞状と記念品、その他の方には参加賞を進呈いたします。

【POP部門】(令和6年度 新設)

1 目 的 日常生活の中で、読書をする機会が少なくなっている現在より多くの本と親しむことで思考力を高め、豊かな人間性を育むことを目的とする。文章のみではない表現方法で、感じたことを表現する。

2 応募期間 読書感想文コンクールと同期間

3 応募資格 町内在住者、並びに町内小・中・高校通学者

4 部 門 (1) 小年生 (2) 中学生 (3) 高校生・一般

5 応募対象の図書

自由(新聞・雑誌、漫画、視聴覚資料を除きます。)ただし、次の事項に注意すること。

(1) 教科書など授業で使用する図書、並びにマンガ本(学習マンガを含む)は除く。

教科書に掲載されていて習ったものは不可。

(2) 絵本、図書になっているケータイ小説も可。

(3) シリーズ物は1作品に絞る。

(4) 上下巻などは読み切る。

6 サイズ等 はがきサイズ(14.8 cm×10.0 cm)

※はがき、画用紙など厚めの紙を使用してください。

※縦横自由、画材(クレヨン・色鉛筆・絵具等)自由、サイズ内であれば変形可。

※パソコンやタブレット等を使用した作成も可。ご自身でプリントのうえ、厚紙に貼り付けて応募してください。

7 応募方法

作品裏面に応募票を貼付して、芽室町図書館へ直接作品を持参、または郵送してください。

8 審査要領

(1) 各学校の代表者並びに一般町民から応募いただいた方により委員会を組織し、審査する。

(2) 各部門とも最優秀は1名、優秀は対象者の10%以内、秀作は対象者の15%以内を入賞の目安とする。

(3) 審査は、作品内容を重視すること。

9 表 彰

最優秀、優秀、秀作の三部門とし、最優秀作品受賞者は図書館で行われる表彰式で賞状と記念品を贈呈する。

なお、優秀、秀作受賞者には賞状と記念品、その他の方には参加賞を進呈いたします。

10 展 示

応募作品は図書館で展示します。

第 51 回芽室町読書感想文コンクール審査要領

【感想文部門】

< 1～2年 >

- * 物語を楽しんで読んでいる。
- * 書いてあることの大体の事柄や筋についてわかる。
- * 好きなところや興味の持ったところを見つけている。
- * 人物の生活や行動の様子を想像しながら読んでいる。
- * 書くことに興味を持ち、何が一番書きたいのかを考え、書く事柄を見つめ書いている。

< 3～4年 >

- * 読みとった事について、感想や意見を持っている。
- * 人物の気持ちや場面、情景を想像しながら読んでいる。
- * 読んだ事により、必要な知識や情報を自分のものとして書く態度が表れている。
- * 自分の考えを持ち、長い文章を書こうとする意欲が表れている。
- * 段落を考えて書き、その続き方も注意している。

< 5～6年 >

- * 読み物を自分で選んで読み、確かなあらすじや主題を理解しながら読んでいる。
- * 文章全体の構成を考えて描写や叙述のすぐれた箇所を読み味わっている。
- * 人物の心情や場面を、自分の人生や意見と対比させ、生き方に反省と向上を目指そうとしている。
- * 必要な事柄を絞り、整理して文章に書き、書くことによって自分の考えをはっきりさせている。

< 中学生 >

- * 優れた作品に親しんで、楽しんで読書をしようとする態度がうかがえる。
- * 読むことにより、作者の見方、考え方について問題を捉え、要旨の明確な文章を書いている。
- * 主題、叙述、構想（構成）の作品の三つの要素を正しく捉え、要旨の明確な文章を書いている。
- * 内容を読みとり、人生や社会の問題を考え、自分の意見を持ち、生活の向上を目指そうとしている。
- * 正しい言葉遣い、はっきりした論理をもとに充分に書ききっている。

< 高校・一般 >

- * 限られた枚数に適切な材料を使って、読書の感想をまとめている。
- * 作品に対する見解が明確であり、読む側になんらかの感動を与えるものであること。
- * 思考力を働かせ、じっくりと読み、自分の言葉で書いている。(本の裏面、新聞などの書評を真似ていない)
- * 文章の論理が明確で、読んでわかるものであること。
- * 鋭い目、大きな目、心の目を持って自由に書いてあること。
- * 人間尊重の精神がうかがえること。

【POP部門】(令和6年度 新設)

< 小学生 >

- * 描こうとしていることがはっきりしている
- * 色を使い分け、伸び伸びと表現している

< 中学生 >

- * よく考えてユニークに表現している
- * POP として人の目をひく

< 高校生・一般 >

- * 作品に対する考えがはっきりしており、本の主題が伝わってくる
- * 色彩やレタリング、言葉の使い方等の技法により、バランスや見やすさの工夫等がある

< 共通 >

- * オリジナリティ(独自性)がある
- * この本を読みたいという気持ちになる
- * 作品に対する想い(愛着)が感じられる